



講義科目

原子力災害環境影響評価論 I

日本原子力研究開発機構の講師により、機構が取り組む福島復興事業や廃棄物処理・処分事業について解説します。

(地球科学関連科目 / 春C集中 / 7月5-7日)

回	日程	時限	テーマ	担当
1	7月5日 (月)	1	福島第1原子力発電所事故後のJAEAの取り組み	川瀬 啓一
2	7月5日 (月)	2	高度化する無人モニタリング技術	佐々木 美雪
3	7月5日 (月)	3	放射性セシウムの吸脱着メカニズム	本田 充紀
4	7月5日 (月)	4	放射能マップはこうしてできあがる	阿部 智久
5	7月6日 (火)	1	福島長期環境動態研究	新里 忠史
6	7月6日 (火)	2	環境中の放射性核種分析方法の研究	藤原 健壮
7	7月6日 (火)	3	原子力災害対応ロボットと櫛葉遠隔技術開発センター	山田 大地
8	7月6日 (火)	4	放射性廃棄物の処分へ向けた研究	竹内 竜史
9	7月7日 (水)	1	事故に由来する廃棄物の管理と放射性核種の汚染ふるまい	駒 義和
10	7月7日 (水)	2	燃料デブリ取り出しに向けた研究	佐藤 一憲



講義科目

原子力災害環境影響評価論Ⅱ

産総研・量研機構・国環研などの講師により、事故後の環境影響評価や除染対策、環境モニタリングについて解説します。

(地球科学関連科目/ 春C集中/ 7月8-12日)

回	日程	時限	テーマ	担当
1,2	7月8日 (木)	1,2	海洋環境における放射性核種と生物への影響	青野 辰雄 量子科学技術研究開発機構
3,4	7月8日 (木)	4,5	(1)低濃度の水中の放射性セシウムの測定手法の開発と標準化 研究から実用化への橋渡しの事例 (2)原子力災害からの環境回復プロセスと課題 除染の費用と効果～県外最終処分まで	保高 徹生 産業技術総合研究所
5	7月9日 (金)	1	河川流域・ダム湖における生物利用性放射性セシウムの動態	辻 英樹 国立環境研究所
6	7月9日 (金)	2	淡水魚と水生生物における放射性セシウムの挙動	石井 弓美子 国立環境研究所
7,8	7月9日 (金)	4,5	環境放射線モニタリング(平常時から緊急時まで)	木村 秀樹 原子力規制庁 六ヶ所原子力規制事務所
9,10	7月12日 (月)	1,2	農地土壌における放射性セシウムの挙動と農業復興への対策	信濃 卓郎 北海道大学



講義科目

地質災害・地層環境評価論

地層処分の概要と地層処分事業に関わる地球科学の基礎、地層、地形、地下水流動等の評価方法について解説します。

(地球科学関連科目/春C集中/7月13-15日)

回	日程	時限	テーマ	担当
1,2	7月13日 (火)	1,2	(1) プレートテクトニクスと地震 (2) 2011年東北地方太平洋沖地震	八木 勇治
3	7月14日 (水)	1	地下水の流動と放射性同位元素等の各種成分における動態	辻村 真貴
4	7月14日 (水)	2	地質・地形から分かる過去の地震と津波	藤野 滋弘
5,6	7月14日 (水)	3,4	鉱物粒子と放射性核種の関係	向井 広樹
7-10	7月15日 (木)	1-4	鉱床の保存とナチュラルアナログ研究	小室 光世 (富山大学)